

安心と信頼、良質なてんかん・神経の包括医療

静岡てんかん・神経医療センター情報誌

令和7年 秋 第78号

あかり

A K A R I

てんかんセンター50周年	1
重症心身障害児・者病棟 全体行事「フラダンスステージ」	2
てんかん看護セミナーを開催して	4
認知症治療薬ケサントラについて	5
入院時支援を始めました	6
小児病棟 A4病棟にて行事を実施しました	6
外来再診の診療体制医療連携室	7
はじめて当院を受診される方へ/当院へのアクセス/本	8

てんかんセンター50周年

臨床研究部長 西田 拓司

当院のてんかんセンターは、本年で設立50周年を迎えました。1975年、静岡東病院が厚生省(当時)より日本で初めて「難病診療基幹施設(てんかん)」の指定を受けたことが、てんかんセンターの始まりです。以来、ビデオ脳波同時記録、抗てんかん発作薬の血中濃度測定、MRI、SPECT、脳磁図、てんかん外科治療など、当時の最先端技術を積極的に導入し、日本のてんかん診療をリードしてきました。さらに、てんかんの療育やリハビリテーションなど心理社会的側面にも力を注ぎ、日本最大規模のてんかんセンターとして医療と支援の側面から

包括的な診療を実践してきました。2015年には、日本各地でのてんかんセンター普及の施策を背景に、静岡県てんかん支援拠点病院に指定されました。この50年間に、静岡県のみならず日本全国、さらには海外からも多くの患者さんが当院を訪れ、診療・支援を受けています。また、てんかん診療を学ぶために、全国各地から医師、看護師、検査技師、薬剤師、リハビリ療法士など多職種の研修生が訪れています。これまで当てんかんセンターに所属した医師は300名を超え、現在も各地でてんかん診療に携わっています。



今井克美院長の挨拶

去る2025年7月20日には、「静岡てんかんセンター50周年記念式典」を開催しました。当日は、現職員に加え、かつて勤務していた職員ら約100名が一堂に会しました。今井克美院長の挨拶に続き、厚生労働省、日本てんかん学会、日本てんかん協会、全国てんかんセンター協議会、静岡県、静岡市静岡医師会、日本てんかん協会静岡県支部の皆様から祝辞を賜りました。続いて、八木和一名誉院長による「忘れえぬ人々ーてんかんセンター始まりの頃」と題する記念

講演が行われました。日本で最初のてんかんセンターを静岡の地に築いた先人たちの努力と情熱を改めて実感できる、心に残る講演でした。記念式典後の祝賀会では、日本各地で活躍する仲間たちと久しぶりの再会を喜び、旧交を温めるひとときとなりました。

てんかんセンターは、次の50年ーすなわち100周年ーを見据えて、これからもてんかんのある方々の幸福のために、包括的な医療と支援をさらに発展させてまいります。



八木和一名誉院長による記念講演会

重症
心身障害児・者
病棟

全体行事「フラダンスステージ」

カラフルで目を引く衣装、ハワイアン音楽に合わせたフラの動き、パフォーマーの方々の笑顔。思わず見ている私たちも笑顔になり、楽しい時間を過ごしました。10月、今年度2度目の重症心身障害児・者病棟の全体行事で「フラダンスステージ」が開催されました。静岡市内のフラ教室「静岡アロハ マリエラニ ハラウ」から16名の方が慰問に来てくださいました。ステージでは、ゆったりした曲やアップテンポな曲と、曲によって動きが違うのはもちろん、衣装も変えて楽しませてくださいました。また、最後の一曲は、振り付けの一部を教えていただき、みんなで一緒に踊りました。患者さんもしっと見つめる方、笑顔になる方、声を出したり踊るように体を動かす方とそれぞれの方法で表現し、楽しむ様子がみられました。

慰問に来てくださった皆様、本当にありがとうございました。

重症心身障害児・者病棟では、生活をより豊かなものにするこ
とや人との交流、様々な刺激を感じていただくことなどを目的に行
事を行っています。今後も病棟スタッフと協力して楽しい行事づくり
をしていきたいと思ひます。 (療育指導室 保育士 望月 恵)



てんかん看護セミナーを開催して

看護部長 西 治世

この度、10月23日・24日に、てんかんを持つ患者様へより質の高いケアを目指し、「てんかん看護セミナー」を開催いたしました。本セミナーは今年で19回目を迎え、当院が掲げる「安心と信頼・良質なてんかん・神経の包括医療」という理念を体現する重要な研修として平成16年より継続しています。全国各地から定員を超える34名の看護師の皆様にご参加いただき心より感謝申し上げます。

てんかんは、日本において100人に1人発症すると言われる誰にでも起こり得る一般的な脳の病気です。しかし、その病態の多様性や発作時の不安等からご本人やご家族が抱える苦悩は少なくありません。医療従事者である私たち看護師もまた、現場での具体的な課題に日々直面しています。ある調査によると全国看護師の約7割はてんかんを持つ患者様に接しているにも関わらず、基本的な知識や最新の専門的な知識について正しく回答できないと答えた人の割合が8割を超えているそうです。本セミナーは、こうした現場の疑問や不安を解消し、最新のエビデンスと知識と技術を習得するために全国からの看護師参加を呼びかけています。

セミナーの内容としては、小児・成人・外科の病態、診断、治療、看護、リハビリテーション、



試食の様子

抗てんかん発作薬、社会福祉制度、脳波検査等の講義を行いました。また、当院の多種職連携の象徴するプログラムとして、てんかんの治療選択肢の一つであるケトン食の試食を実施しました。さらに、てんかん病棟・重心病棟の見学は、日頃の療養環境や多職種によるチームケアの実際を肌で感じていただく貴重な機会となりました。

参加者からは、「発作時の受傷予防のためのグッズや発作が起きた時の対応が動画により理解が深まった」「難しい脳波検査についても詳しく教えてもらって、今後役に立つ」「てんかんについての参考書が少なく、難しいと思っていたが具体的なことがよく理解できた」といった声を多数いただき、てんかん看護セミナーが、参加された看護師一人ひとりの自信と専門性の向上に繋がったことを実感しています。

てんかん看護の目標は、単に発作をコントロールする事だけではありません。てんかんを持つ患者様が、病気から解放されその人らしく、地域社会で安心して暮らせるよう支援することにあります。今後も当院の使命として、このようなセミナーを提供し続け、てんかんを持つ患者様とご家族が、質の高い看護を全国どこにいても提供される社会となるよう貢献していきたいと考えております。



講義の様子

認知症治療薬ケサンラ[®]について

薬剤師 大越 智子

アルツハイマー病による軽度認知障害及び軽度認知症の治療薬として2023年12月20日「レケンビ[®]点滴静注」の発売に続き、「ケサンラ[®]点滴静注液」が2024年11月26日に発売されました。当センターにおいても、安全・適正に使用できるように体制を整え、2024年2月より「レケンビ[®]点滴静注」、2025年3月より「ケサンラ[®]点滴静注液」の投与を開始し、2025年10月までに「レケンビ[®]点滴静注」53名、「ケサンラ[®]点滴静注液」7名の患者様に使用しております。

ケサンラ[®]点滴静注液はアルツハイマー病の原因と考えられている脳に異常にたまったアミロイドβ（ベータ）プラークという物質を取り除くお薬です。これにより、もの忘れなどの症状の進行をゆるやかにする効果が期待されます。中等度以上に進行した方は投与対象外になるため、早期発見と早期治療開始が重要です。ケサンラ[®]点滴静注液350mgは4週間に1回病院で点滴するお薬です。原則最大18ヵ月投与（医師の判断でそれ以降の投与も可能）します。副作用として脳のむくみや出血などが報告されています。また、頭痛や吐き気、めまいなどを引き起こすことがあります。



多くの場合、脳のむくみや出血などがあっても症状がないため、定期的にMRIと呼ばれる画像検査を行い安全な管理体制の下で、質の高い医療を提供します。当センターにおいては、1～4回目までは1泊2日の入院で投与を行い、5回目以降は原則日帰り入院で投与します。

高額な治療となりますので、高額療養費制度などを使用することが可能です。当センター受付や厚生労働省ホームページなどで確認してください。治療にあたってわからないこと、不安なことがあれば遠慮せず、主治医や看護師、薬剤師をはじめとする周りの人に相談してください。当センターを受診される方は、医療機関の紹介状が必要です。まずはかかりつけ医にご相談ください。

受診相談を希望される方は…

静岡市認知症疾患医療センター

054-246-4608 にご連絡ください。

入院時支援を始めました

入院時支援とは、

外来受診時に入院検査・治療が決まった方に入院生活をイメージし入院中、退院後に必要となる、病気と共に生活をしていくための支援を行っていくための支援です。

入院時支援は、30～40分の時間を頂き、入院される方とご家族にお話を聞かせて頂きます。

医師

- ・治療計画の策定や病状の説明をチームで検討し、患者さんの回復を導きます。

看護師

- ・生活の様子…その人らしく生活できる様に。

普段の生活の状況 服薬状況 (食事・薬等のアレルギーの有無の確認)

(例)脳神経内科：入院環境に配慮が必要な車椅子を使っているなど、入院によって生活が変化する方の介助ポイントなどを確認。入院病棟と相談し、入院生活環境を整えていきます。

病気によって困っている事など

地域で使っているサービスや支援(ご家族の方にサマリーの依頼をお願いすることがあります)

- ・入院内容によって、検査の説明や検査に必要な物品などの説明…

入院に対する不安の軽減のために。

(例)てんかん科：長時間脳波・24時間検査室で生活のための不安・負担の軽減の提案・用意して頂く物本などの趣味の物を持ち込み可能・前開きの寝衣の用意、食事、トイレ、入浴について説明。

- ・再入院…生活状況の変化・年齢

前回の入院から変化があった内容の確認。

※教えて頂いた情報を元に、必要な職種に繋げていきます。

- ・治療・入院費等、経済的な不安がある方は、ソーシャルワーカーに相談し使える支援も確認していきます。

薬剤師

- ・当院以外の薬も含め、現在内服中の薬の確認。

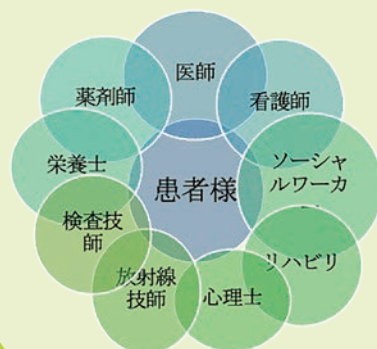
栄養士

- ・アレルギーの確認、食事形態・栄養状態の確認。

まだまだ始まったばかりで、患者様には御負担をおかけいたしておりますが、サービス向上のためにも、病院の各部署とも連携し、患者様中心の医療になるように努力して参ります。

何か確認・お聞きしたいことがあれば、地域医療連携室(入院時支援担当者)まで、お声かけください。

地域・生活の場へ



小児病棟

A4病棟にて行事を実施しました

療育指導室
相川 萌子



8月29日にA4病棟で夏の行事を実施しました。今回のテーマは、『キャンプ』。

入院中の子どもたちにもキャンプに来たような気分を味わってもらえるよう、様々な体験ブースを用意しました。魚釣りゲームやキャンプならではのランタン作り、きもだめしではモンスター探し体験、夜空を眺める星空鑑賞等、子どもたちは思い思いに楽しむ姿をみせてくれました。また、行事後半では、キャンプから繋がるテーマとして『夏フェス』を開催し、医師や病棟看護師、療育の職員が子どもたちと一緒に歌やダンスを披露し、大きな拍手に包まれ



る和やかな時間となりました。

A4病棟では、感染対策を行いながら子どもたちが入院の楽しみの1つとなるよう定期的に行事を実施しています。私たち療育指導室をはじめ医師や病棟の看護師は、子どもたちやご家族の皆様がどのように治療や入院生活を乗り越えていけるか常に考えながら支援を行っています。今回のこの行事が子どもたちやご家族の皆様にとって治療を乗り越える力となり入院生活での楽しい思い出のひとつになれば嬉しく思います。



診 療 体 制

てんかん科

午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30

曜日	初 診					再 診				
診察室	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
第1診察室							山崎悦	川口	山崎悦 (AM)	白井
第2診察室						徳本				
第3診察室	大谷英之			白井直敬			西田			西田 (AM)
第4診察室		露崎悠						日吉	宮下	川口 (AM)
第5診察室							水谷	平松		小川
第6診察室					松平敬史	芳村		松平	芳村	
第7診察室			山口解冬							山口
第8診察室		今井克美		今井克美	今井克美	今井		高橋		
第9診察室		川口典彦	山崎悦子			重松			大谷	大谷
第12診察室	西田拓司		西田拓司							

脳神経内科

■ 初診

診察室	曜日	月	火	水	木	金
第10診察室	午前 午後	小尾 小尾智一	小尾 小尾智一	小尾 小尾智一		小尾 小尾智一
第11診察室	午前 午後	杉浦 杉浦明 初診+再診	杉浦 中川裕亮	高嶋 高嶋浩嗣 初診+再診		寺田 尾内 第4週
第4診察室	午前	中川				
第5診察室	午前	寺田達弘 初診+再診				

特殊外来

認知症疾患医療センター	月・水	小尾智一
睡眠覚醒外来	第3 または 第4金	小栗卓也

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

地域医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、地域医療連携室を設置しています。ご利用ください。(平日)

TEL ■ 054-246-4580

FAX ■ 054-246-4607

E-mail ■ 307-renkei@mail.hosp.go.jp

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。上記、地域医療連携室にお問い合わせください。

広報誌編集委員会

編集人 ■

西田 拓司 藤田 陽子 石橋 綾子
内野 達宏 佐倉 裕二 上野 智弘
堀 友輔 高橋 輝 鈴木 一彦
宮本 将志

発行 ■ 令和7年12月9日

国立病院機構

静岡てんかん・神経医療センター

〒420-8688 静岡市葵区漆山886

TEL ■ 054-245-5446

FAX ■ 054-247-9781

URL ■ <https://shizuokamind.hosp.go.jp>

E-mail ■ 307-shizuokamind@mail.hosp.go.jp

はじめて当院を受診される方へ

◆診察は予約制になっています◆

1 受診のための手続きは…

予約は、本人・家族は予約センター(054-246-1065)、病院からは地域医療連携室(054-246-4580)

その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

2 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

3 紹介状について

紹介状がない場合については、令和6年5月31日までは2,750円、令和6年6月1日からは7,700円の別途費用がかかりますのでご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

4 セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

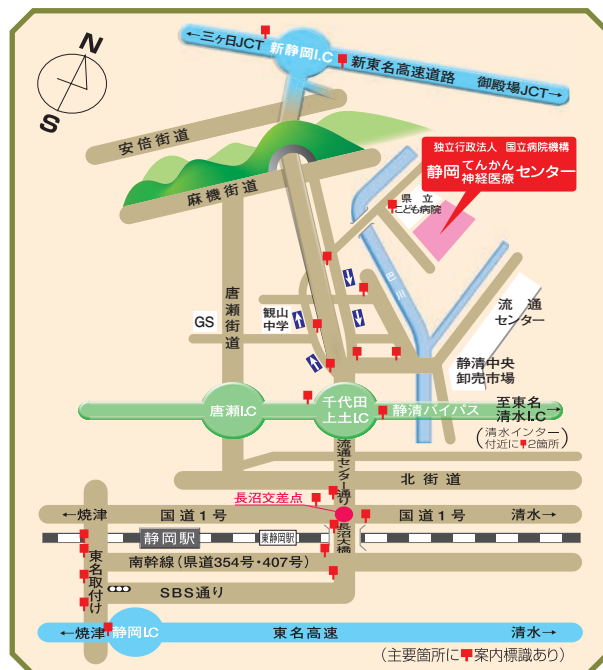
5 静岡市認知症疾患医療センターについて

認知症の受診やご相談は専門医療相談 ☎054-246-4608

当院へのアクセス

access

バスをご利用の場合	● JR静岡駅前、北口バスターミナル5番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67 こども病院・神経医療センター」行に乗車、終点の「静岡神経医療センター」で下車。全所要時間は約30分。片道料金は大人450円、小児230円。
	● JR静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約20分。料金は2,800円程度。
東京方面から	● 東名高速清水インターより、静岡バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ約3分。所要約20分。
	● 御殿場JCTで新東名高速道路へ乗換。新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。
名古屋方面から	● 東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ約10分。所要約30分。
	● 新東名高速道路・新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。



本

●抗てんかん薬ポケットブック(改訂第6版)

【日本てんかん協会、2016年】

禁忌、重大な副作用、重大な副作用疾患別症状、体内動態と主な副作用、相互作用、抗てんかん薬プロフィール、新規抗てんかん薬の開発状況、Q & A、識別コード(錠剤のみ)を掲載。

●エキスパートが語る てんかん診療実践ガイド

【日本医事新報社、2022年7月】

静岡てんかん・神経医療センターの専門医が中心となり、てんかんの診断・分類から薬物治療、社会生活のアドバイスまでを体系的に解説。

- ・てんかん発作と間違いやすい症状・疾患との鑑別を丁寧に取り上げ、誤診を防ぐための知識をふんだんに紹介。
- ・薬物治療についても、併存症や副作用、減薬など、判断に迷うことの多い疑問にやさしく回答しました。

●新 小児てんかん診療マニュアル 【診断と治療社、2019年】

多くの読者に支えられ改訂を重ねてきた本書。今回、2017年の新しいILAE てんかん発作分類提案に基づいた小児てんかん診療を可能とするために、ここに「新版」として生まれ変わりました。新規抗てんかん薬だけでなく、新分類で重視される病因別の特徴や心因性非てんかん発作、遺伝子検査、MRSといった新しい画像検査など、てんかん学の進歩をたくさん詰め込みました。

●プライマリ・ケアのための 新規抗てんかん薬マスターブック(改訂第2版)

【診断と治療社、2017年】

「副作用のない治療によるてんかん発作の完全抑制」は、治療を担当する医師および患者さんとそのご家族にとって、切実な願いです。

2006年以降、「新規抗てんかん薬」とよばれる新しい抗てんかん薬が順次発売され、今後しばらく、新規抗てんかん薬の発売が続くと予想されています。本書は、これらの新規抗てんかん薬の使い方をわかりやすく解説したものです。小児と成人に分けて、エビデンスやガイドラインに基づいて、当院のスタッフがわかりやすく執筆しています。当院高橋幸利先生の編集です。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟1階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

- ① てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
- ② ホームページによる情報提供 <https://shizuokamind.hosp.go.jp/epilepsy-info/>
- ③ てんかん協会との連携
- ④ 医療などの相談(予定)